

岡山プログラム小委員会報告

2012年岡山ユーザーズミーティング

2012年8月7日

橋本 修（ぐんま天文台）

柳澤 顕史（岡山天体物理観測所）

2011,2012年度 岡山プログラム小委員会

- 川端弘治 広島大学 (2009 – 2012)
- 杉谷光司 名古屋市立大学 (2009 – 2012)
- 野上大作 京都大学 (2009 – 2012)
- 橋本 修 ぐんま天文台 - 委員長 - (2009 – 2012)
- 伊藤信成 三重大学 (2011 – 2014)
- 関口朋彦 北海道教育大学 (2011 – 2014)
- 深川美里 大阪大学 (2011 – 2014)
- 柳澤 顕史 岡山天体物理観測所 - 幹事 - (2011 –)

2011年岡山ユーザーズミーティングから

- 大学間連携観測（特に突発天体に対するToO観測）
 - 現在は所長判断、年一回程度であれば可、それ以上は補償の問題もあり困難？
 - 2010年のGRB発生は27回、この程度までのToO観測の可能性がある。
 - 今後は体制やルールの策定が必要。
- プロジェクト観測（上限40日）
 - 一般も含めて成果（論文数、インパクト）が最大になることが条件。
 - 2件が同時進行で、1件20夜では、一般と変わりなく魅力がない。30夜は欲しい。
 - プロジェクト時間が多少増えてもよいのではないか。トータルで60夜くらいまで？
 - 一般枠で研究を進めているユーザーも大事にして欲しい。
 - この場で結論はでないが、実際の作業でプロ小が一定の結論を出す場合がある。（何となく、30夜×2件ならば許されそうな雰囲気？）

この一年間の活動状況

- 2011年10月12日 2012年前期プログラム・プロポーザル公募締切
- 2010年11月15日 プログラム小委員会 プログラム採択
場所、時間： 岡山コンベンションセンター 9:00-15:00
参加者： 橋本(委員長)、川端、野上、伊藤、関口、深川、柳澤
(Ex.Officio: 泉浦、神戸)
- 2012年4月10日 2012年後期プログラム・プロポーザル公募締切
- 2012年6月7日 プログラム小委員会 プログラム採択
場所、時間： 国立天文台(三鷹) 10:30-17:00
参加者： 橋本(委員長)、杉谷、川端、野上、伊藤、関口、深川、柳澤
(Ex.Officio: 泉浦、神戸)

2011年11月 プログラム小委員会 主な議事 (1)

• プログラムの審査

プロジェクト観測 継続 1件(40夜) 申請中 40夜割り当て
(現実には36.8夜割り当て*)

学位支援 申請 0件

一般 11件(99夜) 申請中 10件(82夜) 採択
(現実には78.2夜*, 内2.2夜は短時間のシェア**)

* トランジットや特定天体の観測のため、観測日時が制限されるものがある。
一方で、装置交換の現実的な運用制限がある。

** 特定天体の観測のため、その天体を観測するだけの時間を他のプログラム
時間の間に優先挿入。

2011年11月 プログラム小委員会 主な議事 (2)

- 複数期日の観測申し込みについて

今期の申し込みから、複数期の観測計画については、Scientific Justification の中で、そのことを明記し、

(1) 「全体計画」と複数期にわたる理由、および計画終了時期

(2) 全体計画の中での今期の位置付

(3) 過去に観測がある場合は進捗状況として研究の達成度と今後の見通し

を示すことを求めている。

- 申請書書式(Past observations)

同一課題か否かを確認するため、課題名の一部を書くようにするか検討する。

- 成果の評価、申請課題の傾向

観測所が求める成果の評価、論文数、観測から出版までの時差、
ポスト系外惑星ブーム、新たな観測傾向の展望、海外からの提案、
etc.

2012年6月 プログラム小委員会 主な議事 (1)

• プログラムの審査

プロジェクト観測	継続 1件(40夜) 申請中 34夜割り当て 新規 1件(40夜) 申請中 0夜割り当て(不採択)
学位支援	申請 0件
一般	新規11件(98夜), 継続7件(84夜), 合計18件(182夜) 申請中 新規5件, 継続4件, 合計9件(75夜) 採択 (現実には71夜*) 一般の1件は、不採択のプロジェクト観測とほぼ同内容 25夜(実際には23夜*) 割り当て

* トランジットや特定天体の観測のため、観測日時が制限されるものがある。
一方で、装置交換の現実的な運用制限がある。

2012年6月 プログラム小委員会 主な議事 (2)

- プロジェクト観測に求められる成果

- (1) 論文数 / 観測時間

- 第一義的に数が重要

- 一般も含め、およそ 10論文 / 年, 1論文 / 22共同利用夜数

- プロジェクト観測にはさらにプラス・アルファが欲しい

- これまでのプロジェクト観測 3～5編 / 年で平均的 引用も多い

- プロジェクトでは出版まで時間がかかるのも可、しかし、3年以内が限度

- (2) 将来への広がり

- 岡山での将来の発展が望ましいが、他の場所での展開でも構わない

- 一般観測

- 複数のプロジェクト観測を実施すると、非常に高い競争率になる場合がある
過去の最大競争率は 3倍程度
 - 新規提案も多く、可能性を提供することには意味がある
 - 将来的な新たな発展に繋がる可能性も無視できない
 - 短期で実質する一般観測の生産効率は必ずしも悪いものではない
 - 海外からの観測提案が、採択されにくい傾向がある

複数のプロジェクト観測が提案された過去の例

- 2001前期

1件 採択

1件 不採択

- 2004前期

1件 採択

1件 PI装置による申し込みであったため、受理せず
(一般として採択, 以降一般観測として継続)

その後、観測所からPI装置であってもプロジェクト観測を受け付ける提案
装置の可能性等は観測所が判断、プロジェクト装置への補助
ただし、これまで提案された例はなし

- 2012後期

1件 採択

1件 不採択 (一般として採択)

プロポーザルの内訳

2012年	前期			後期		
	N	P	S	N	P	S
Solar system	1			0		
Stars	2			5		
Star formation	0			2		
Exsoplanets	6	1		6	2	
Interstellar	0			0		
Galactic	0			0		
Extragalactic	1			5		
Other	1			0		
HIDES-S & F	0	1		0	1	
HIDES-S	3			2		
HIDES-F	2			5		
ISLE	4			6	1	
KOOLS	2			5		
HBS	0			0		